

2016年11月1日 掲載 輸送経済新聞

1日、庄内支店を稼働

日本海側、東北の主要拠点に

第一貨物

第一貨物(本社・山形市 武藤幸規社長)は山形県三川町に「庄内支店」としてターミナルを新築し、一日から稼働させる。特積みを手掛ける酒田支店(山形県酒田市)と鶴岡支店(同鶴岡市)のほぞ中間に位置し、二支店を統合。効率的な運営を目指す。

(矢田 健一郎)

新

たにオープンする庄内支店は、開設から四十四、四十六を契約する。

業務面、運賃を効率化し、庄内エリアの輸配送の充実、さらなる品質向上を図る。

所在地は山形県三川町青山外川原一九二〇。この地域を南北に結ぶ国道七号線三川バイパス沿いに立地。日本海東北自動車道・庄内空港インターチェンジから約十分の



庄内エリアの中央・三川町に位置。倉庫も併設した

距離。庄内空港からも約十二分と好立地。南海トラフ地震など大規模災害が発生した際にも、日本海側の拠点として中継機能の役割も果たすことを見据えた。

敷地面積約二万八千七百平方メートル。鉄骨造で建設。延べ床面積は五千平方メートル。このうち、荷さばき場は千八百平方メートル。酒田支店と鶴岡支店を合計した広さ。約七百平方メートルの一時保管庫も併設した。

セキユリティー確保のため、デジタル監視カメラを三台設置。敷地構内向けには夜間対応カメラを採用した。食堂、シヤワー室のほか、カフェ・仮眠室を用意し、働きやすい環境を整備。自動洗車機、三キロボットの自家燃料タンクも設けている。

(荷さばき場五十八台、一時保管庫二十二台)、幅三十一メートル。また冬季の吹雪を避けるため、日本海からの風を受ける西側部分はインドア仕様となっており、幅二十メートル。主に西側に集配車が、東側に運行車が接岸し、集配車三十二台、運行車十台が止められる。トレーラードックレバラーも五基

統合必要な最後の店所



武藤 幸規社長

経済圏の近い酒田、鶴岡社員・スタッフが庄内支店の二店所を効率化した。長年テマとして抱いていた構想が実現した形。集配下エリア。十七台の運行使行が四十二人、事務などを全国へ届ける。また全国から当地の一千社の顧客へと荷物を配達する。今後ますますサービスを充実し、顧客を物流面からサポートしたい。

(文責・矢田 健一郎)

本海側、東北の主要な物流拠点となることを目指した」とした上で、「日本海沿岸道路に加え、平成三十年には東北中央自動車道が完成する。スピードが重要な当社サービスにとって優れた立地」と品質強化への期待を込めた。

十月二十八日のしゅんた。工式で、武藤社長は「日